開催報告

2018 年日本表面真空学会 学術講演会開催報告

桑原裕司^{1,*}・松本卓也^{2,**}

¹ 大阪大学大学院工学研究科
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-1

² 大阪大学大学院理学研究科
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-1

(2019 年 1 月 16 日受理)

Report on 2018 Annual Meeting of The Japan Society of Vacuum and Surface Science

Yuji KUWAHARA^{1,*} and Takuya MATSUMOTO^{2,**}

¹ Osaka University, Suita, Osaka 565-0871

² Osaka University, Toyonaka, Osaka 560-0043

(Received January 16, 2019)

1. は じ め に

2018 年 11 月 19 日 (月) から 21 日 (水) の三日間、神戸国際会議場において、2018 年日本表面真空学会学術講演会が開催されました。今回の講演会では、最終的に、総講演数 422 件、参加者数 704 名 (会員 499 名、非会員 108 名、企業展示参加 97 名) を数えました。

公益社団法人日本表面真空学会が発足して、最初の学術講演会が関西で開催されたことは、大変光栄であり、また関係各位のご協力、ご尽力で十分充実した内容になったと思います。一方で、本講演会に至る道のりにおいて、合併に伴う両学会の歴史や慣習の違いから、様々な配慮が必要でした。4 月の会告までは、2017 年度に旧表面科学会 (以下旧表面) 関西支部長を務めた松本が、主にセッション構成、シンポジウム構成、講演奨励賞関係の統合を行い、4 月以降は合併後の 2018 年度表面真空学会関西支部長 (旧真空学会関西支部長) の桑原が会場設定や実行委員会を担当しました。

合併に際して、セッション構成で重なりがある部分をどのように扱うかは、大変難しい問題でした。これまで、両学会で慣れ親しんできたセッション名が、合併で突然無くなってしまいうことを避ける、という大方

針のもとにセッションを構成しました。旧表面と旧真空それぞれのこれまでのセッション名が一つ残らず、合併後の学術講演会でも見つかるようになっていと思います。合併に伴う改革としては、各国で開催される真空関係の国際会議で使われるセッション記号を、旧表面由来のセッションにも拡張して適用することにしました。合併後の表面真空学会が、国際真空連合の日本における対応組織であることを明確にするメッセージでもあります。

もう一つ、合併に際して検討を要したのは、シンポジウム企画の方法です。今回は、これまでの旧表面と旧真空の手順を、そのまま並立的に残すこととしました。しかし、そのためにシンポジウムがやや乱立気味であることは否めません。これに加えて、旧表面には部会セッションが数多くあるので、今後、何等かの整理統合が必要であると思われますが、あまり急がず、毎年のプログラム委員会で少しずつ良い形を探っていただければ良いと思います。ちなみに、これまで旧真空側でのみ行ってきた公募型シンポジウムを表面真空学会として引き継ぎ、今回は 2 件を採択しました。

講演奨励賞の審査方法、審査区分も、旧学会間で大きく異なっていましたが、旧真空関係者のご理解が得られ、ほぼ、旧表面の方式に沿った形になりました。ただし、旧表面の審査票は学術的な内容の評価に偏っていて、旧真空にあった技術や社会貢献に関する評価項目が不足していましたので、新しい形式の審査票を作成してお使いいただきました。

2. 講演会の概要

講演会の内訳は、基調講演 3 件、国際シンポジウム 6 件、企画・公募シンポジウム 45 件を数え、一般セッションを加えて、招待・依頼講演数は 86 件、一般口頭講演は 163 件、ポスター講演は 148 件、さらに、受賞記念講演は 9 件に上ります。併設の企業展示には 47 社 48 ブースの展示があり多くの支援を賜りました。

第一日目は、計 7 つの会場で、各シンポジウムや一般セッションが、パラレルで開催されました。昼休みには、ランチョンセミナーが、また夕方よりポスターセッション (Fig. 1 lower) や、真空スクールコースが開催され、一日を通じて、大学・研究所の研究者、また企業関係者や、学生を含めた多数の参加がありました。また、午後からは企業展示も開催 (Fig. 1 upper) され、多数の参加がありました。終了後には、企業関係者と、学会理事との交流会も持たれました。

* E-mail : kuwahara@prec.eng.osaka-u.ac.jp

** E-mail : matsumoto-t@chem.sci.osaka-u.ac.jp

Fig. 1. (color online). Industrial exhibition (upper) and poster session (lower).

二日目は、合併後最初の学術講演会を記念して、3名の基調講演による記念講演会を企画しました (Fig. 2)。九州大学の森田浩介先生からは「新元素の探索」という題目で、アジアで初めて命名権を得た新元素「ニホニウム」発見に至る長年の挑戦的研究について熱く語っていただきました。また、東大名誉教授の塚田捷先生は、「表面科学の新展開に向けてー基礎と応用のかけはしー」と題して、これまでの表面研究の大きな発展と今後の展望について主に理論研究の観点からお話しされました。東大ナノ量子機構の荒川康彦先生は、「半導体量子ドットの発展ー基礎研究から実用素子までー」と題して、光

デバイス関連の壮大な国家プロジェクトと日本の優位性を紹介していただきました。午後からは、旧表面・旧真空の規定にもとづいて、表面科学部門では、学会賞・論文賞・会誌賞・技術賞・産業賞が、真空部門では学会賞・フェロー・会誌賞・技術賞・進歩賞が、併せて18組の個人・グループに対して、大門会長より授与されました。午後には、国際シンポジウムを加えて7つのセッションが設けられ、また初日に引き続き企業展示とポスターセッションが行われました。ポスターセッション終了後、場所をアリストンホテル神戸に移して懇親会が開催され、合計129名の参加がありました。

三日目も計7会場で9つのセッションを進行し、各セッションで、朝9時から午後5時まで、熱心な発表と討論が行われました。

3. 総 括

今回の講演会開催にあたって、神戸コンベンションセンターにご支援をいただいたことを、ここに深く感謝いたします。また、講演会のプログラム委員、実行委員、本部事務局、またすべての会員の皆様に感謝の意を表します。特に、関西支部の会員の方々には、準備段階から当日まで多大なご協力をいただきました。

冒頭に記したように、今回の講演会は、一連の合併プロセスと同時並行で準備が開始され、途中さまざまな統合が進んだ後、新学会として全会員レベルで行われた最初のイベントでした。また、講演奨励賞対象の発表が例年に比べて非常に多かったこともあり、新学会のスタートにふさわしい若々しい学術講演会になったと思います。今後も、新学会が末永く発展・継続することを確信して、本稿の総括と致します。

実行委員長：桑原裕司

副実行委員長：松本卓也

Fig. 2. (color online). Plenary lectures by Prof. Morita, Kyushu University (left), Prof. Tsukada, Tokyo University (middle) and Prof. Arakawa, Tokyo University (right).